

川柳大会に寄せて 東天紅のこと

編集 欣吾

詩のはなし



カットは中根松亭氏

その昔、石城地方特有の非藝術的狂句党と対抗して、東都の井上及び「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

故言成劍突坊、黒船は空坊と共に芝園社を起して、柳歌「しらん」を詠んで、「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀

穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

故言成劍突坊、黒船は空坊と共に芝園社を起して、柳歌「しらん」を詠んで、「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀

穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

故言成劍突坊、黒船は空坊と共に芝園社を起して、柳歌「しらん」を詠んで、「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀

穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

故言成劍突坊、黒船は空坊と共に芝園社を起して、柳歌「しらん」を詠んで、「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀

穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

故言成劍突坊、黒船は空坊と共に芝園社を起して、柳歌「しらん」を詠んで、「ボンラ」を発行。石城川柳開拓に苦労を続けた父、名は秀

穂、号、奥夫紅透つて十五年、久しく停泊を続けていた石城柳壇が再燃、いわき民謡の力もあって現況の盛んな、今回現川柳界の泰斗川上三太郎先生を迎えて、川柳大会が開かれたことは誠に豪ばしい。しかし、この競争を見たところ、あるの貴重な父がかんじと微

り教導して、いま手元にないのは残念なことです。

昭和十六年八月亡父三年忌の折り、遺作集「紅葉」を作った當時

の知交に贈ったことが、不肖の恩

子とのおせめの慰めとした懐

笑でござります。しかし、い出が残っております。

お祝い申し上げます。

父の句は、人間としていかに生

きたかと音のところの解答として、

父が柳壇酒肆で大正時代は

まだ生を受けた知る由もない

聞ひの生のものと密接する

相互銀行の前身、湯本無度の無度

報の選者として、月百五十から二

西の句集を選印しておらました。

また当時の全国有名川柳人の筆跡

をハガキ大の用紙で求め、その真

枚近い板木を貰ひ削るなどしてお

りましたが、余りにも早い他界で

あるの貴重な父がかんじと微

それもほきで、その貴重な想い

が頭がしおれ。

下積みの人のストライキ

日本は決して生き残ら

人生の二人の春へ金庫風

子の世話を親の手の汗

行へ年々未練はないが考へる

春風歌を覚えず脳の日曜日

であると題す。

低学年なら「おやゆめ」、「不思議」を発見することを始めたと思

ったことを記憶するようにした

い。自分のことだと、したいこと

で、おもろがかったらどうぞ

題材があるし、書きれない程の

は、詩の生命である比喩表現が発

達してくるから「……のようだ」

式の発見(練習)が、題材の視野を

広めよう、また人間への関心や生

命と死、生きていることへの疑

問、社会意識などジョンの現実な

と、自然や身のまわりの肉身や級

友に対する、視野を拡げ、アン

テナの効用をこなして、

そのためには、教師は二分か、

三分の時をこなして、話題の提

供をすむことが大切である、また

ひとつの話題合いでの中へ行

動のなかで、題材を見つけ出す

が大事、これが何がける必要がある

と思ふ。

自由に書く詩の大切さがあるが、

学校といつ集団を利用するなら

が、課題を与え、それを書くこと

も重要な事。

その時の課題は、学級での問

題、地域での問題等など、共通す

べきものと選ぶことは当然。

とにかく学級で何でもいた

いじめ、考へてくる以上、すぐ

に書けるやうに書きたいある

ことが、題材への接近だと思ひ。

題材を見つけるには

大高線

佐々木 義勝

「みんなね、アーティナってなんだか知つてないかい」「これね、すぐにわかるよ。でも、まだ知らないんだが、もんじつしていただけ」「ホレビツヒツコト、さうすま」「ベベヤーにもちこづくね」
こんな答が出来た

「毎日も知つてね」「毎日」とある」「毎日」とある。

「みんな、よく知つているね。それじゃ、アーティナは、どんな語を使っているか知つていいね」
これが

「…………」「アーティナってなんだか知つてないかい」「これね、すぐにわかるよ。でも、まだ知らないんだが、もんじつしていただけ」「ホレビツヒツコト、さうすま」「ベベヤーにもちこづくね」
こんな答が出来た

「毎日も知つてね」「毎日」とある」「毎日」とある。

「みんな、よく知つているね。それじゃ、アーティナは、どんな語を使っているか知つていいね」
これが

「毎日も知つてね」「毎日」とある」「毎日」とある。

「みんな、よく知つているね。それじゃ、

少年捕導84%も増加

平署二ヵ月で四百人越す

今年の盗みが複雑化されてきた」と平署防犯係は矢張り警告している。同様はいよいよ1月から三百五十六件と発生した少年の犯罪は四百四十四人、前年より一百四十人(二百九十四人)と八十四人も増加した。形跡の盗みは盜み六十二人(前年十四人)、書類二人(二人)、銀行四人(四人)だったが、悉かに盗むのは(十一人)に減った。

一方補導した少年は特別犯十一人(一人)、不良行為三百三十四人(三百十七人)で高

校、中学生の順だつた。この原因について同僚は「けんかの映画の影響で、犯罪意識が薄くなつたのではないか」と述べている。

一九番深夜の急病人救う

医者が出ずとひさの頼み

深夜の急病人が、消防署の機関などはいかいで医師の手当を受けて、一命をとりとめた。

二十一年前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

電話を受けた当直の坂本端清

防士が鈴木助作司令に通じ、平市

谷川(さかわ)の四百四郎医師

(さかわ)に往診を依頼した。四百四郎

は快方に向かつてしまつた。

自衛隊員殴つ

た二人を逮捕

十四日

四倉町八重喜(ひやうき)、工貿(こうめい)

利(り)と同田(ともた)、書類(しょりょう)三犯(さんぼん)、運

転車(うんてんしゃ)小林(こばやし)のふだりを侵害(あくせき)で

ふたたび二十二日後十一時ご

と

平署は二時四十分で

四百四郎医師(さかわ)を

殴(う)たが

た。

二十一日午前一時過ぎ平市神谷

作の鰐沼(さかなざわ)は、心臓

せんそくの発作を起した。おど

ろいた家人が平市の医療教科所

でなかつた。周囲にくれる家人か

ら同五十分で平市消防署に二

九番で「医師をなんとかしてほ

い」と要請があつた。

